

科目	福祉環境学概論	担当	三田 勝己	履修学年	3年
時間数	90分×時限×16回(週1回)	履修区分	必修	単位数	2単位

**【授業目標・到達目標】**

2001年WHOは国際生活機能分類を採択し、その中で「医学モデル」と「社会モデル」という対極的な立場の双方を重視し、統合をはかることが重要であると提言している。この講義では、まず、国際生活機能分類をとりあげ、その概念、評価法、活用法を学習し、福祉環境デザインの包括的な在り方と方法論を修得することを授業目標とする。特に国際生活機能分類が示す「環境因子」と密接な関わりをもつ物理的環境(ユニバーサルデザインなど)や制度的環境に注目し、その基本的な考え方、歴史的な経緯、評価の方法論が修得できる。

**【履修注意】**

授業は全回出席のこと。質問は教員や受講生にとって貴重な情報であり、講義中、随時受け付ける

**【評価方法】**

出欠席・授業態度(積極的参加度合い):30点, 筆記試験:70点により総合評価。

**【試験について】**

筆記試験

再試験対象者の条件: 不合格者(59点以下)はレポート課題を提出

**【予習・復習】**

授業では必要に応じて多数の例題を提示するが、これらの解答や解説を復習して、授業内容の理解を深めること。

**【教科書】**

書籍名: 国際生活機能分類, 編集: 障害者福祉研究会, 出版社: 中央法規出版 (ISBN4-8058-4417-5)

**【参考書】**

書籍名: Strategies for teaching universal design, 編者: Welch P, 出版社: Adaptive Environments

**【その他の注意事項】**

**【授業計画・内容】**

回数	項目	内容
1	オリエンテーション	障害の発生・歴史
2	国際生活機能分類(1)	概念的理解
3	国際生活機能分類(2)	項目・コード・評価点
4	国際生活機能分類(3)	活用事例
5	物理的環境(1)	バリアフリーデザイン(BD)・ユニバーサルデザイン(UD)
6	物理的環境(2)	健康の社会的決定因子
7	演習(A)	例題の解答・解説
8	制度的環境(1)	理学療法士法・作業療法士法
9	演習(B)	例題の解答・解説
10	制度的環境(2)	介護保険制度
11	制度的環境(3)	障害者福祉制度
12	演習(C)	例題の解答・解説
13	関連する福祉環境(1)	ノーマライゼーション
14	関連する福祉環境(2)	クリニカルパス・個人情報保護・EBM
15	演習(D)	例題の解答・解説
16	期末試験	